

令和4年度学校評価最終報告 (今年度の取組と次年度に向けて)

各部の取組

項目	具体的方策	今年度の取組と次年度に向けて
授業づくり	<p><高等部> 昨日より今日、もっといい授業のために準備や検討を密に行う。 各教科・領域において、新学習指導要領を踏まえつつ、カリキュラム・マネジメントを推進していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメントの視点で、作業学習における種目の整理、内容の見直しを進めた。今年度の検討されたものを土台として次年度、授業を展開していく。その過程で明らかになる課題を元に改善を繰り返しつつ、社会とつながりいきいきと生活する基盤の育成に取り組んでいきたい。
	<p><施設内教育> 友達や教師と関わりコミュニケーションを図りながら、一人一人の伸びの検証と指導の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活単元学習では、昨年度作成したモデル年間指導計画を基に授業実践を行うことができた。児童の指導目標を確認し、教師間で共通理解をして取り組んだ。 ・今年度は特に病院の理学療法士と連携をとることができた。児童の姿勢のとり方や体の動かし方等を教えていただき、自立活動の授業に生かすことができた。 ・次年度も病棟との連絡を大切に、児童に関わっていきたい。児童の成長に伴い発作等体調の変化が著しいが、個々の児童の実態に即した教材・教具を整え、指導の充実を図っていきたい。
	<p><教務部> 授業づくりを支える教務関係様式の活用方法や個々の教員に期待したいカリキュラム・マネジメントの方向性を示し、授業力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に教務関係書類書き方講習会を新転任者対象と各部職員向けの2回実施し、特に個別の指導計画を中心とする授業づくりのためのカリキュラム・マネジメントの方向性について共通理解を図った。 ・各部会において複数回に渡り、個別の教育支援計画や個別の指導計画の表記方法や記入時の留意点について具体例を出しながら、授業改善の重点をpushした。 ・個別の指導計画では随時評価を推し進めるため、作成に困っている職員へ具体的な記載例等を個別に示したり、教科領域主任や学年主任と連携したりして、適切な時期に評価を行える手だてを講じた。 ・単元を通して3観点をバランスよく育てることを意識した授業づくりを着実に推し進めていきたい。
	<p><研修部> 「いきジョイ（校内研究）」に全校で取り組み、主体的・対話的で深い学びの視点に立った生活単元学習の授業について全教員で共に考え、学び合う中で、授業力の向上を図る。</p> <p>教員が部間のつながりを意識しながら、児童生徒一人一人の指導や支援について考え、実践できるようにサポートする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部と連携し、学校全体で主体的・対話的で深い学びの視点に立った生活単元学習の授業について共に考える研究を行った。年度当初に教員全体に向けて説明会を実施したことで、主体的・対話的で深い学びについて教員間で共通理解・共通認識をもった上で、研究を進めることができた。 ・部を越えたチームを編成し、各部の授業実践に触れる中で、「他部を知る・他部の視点を得る」機会となり、より部間のつながりを意識した授業づくりを行うことが大切であることに多くの教員が気付くことができた。 ・教員が互いの授業を気軽に見合うことができるように、「部を越えた自由な授業参観」を年間2回設定した。授業参観した教員は全体の2～3割だったが、気軽に参観できてよい取組だという意見が多く挙がっている。今後は、参観方法の見直しや全校で授業を見合う雰囲気づくりの工夫をしていく。 ・次年度も、全教員で共に考え、課題を解決し、学びを促進していきたい。

		<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育スキルアップ研修では、教員のニーズに応じ、「強度行動障害」「自閉症」「姿勢保持」の3グループに分かれて研修を実施した。事後アンケートにより、多くの参加者から「満足」と回答を得ることができた。また、研修の動画等資料を用意したことで、研修に参加できなかった教員も改めて研修を受けることができ、学びのサポートにつなげることができた。 ・今後も、専門性の高い教員や外部講師と連携して研修会を実施し、教員の専門性の向上を図っていきたい。
	<p><自立活動部> 児童生徒の適切な実態把握につながる研修会を実施したり、よりよい支援方法の情報交換を行ったりすることで授業づくりの基盤を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回選択研修会では、アセスメントについての研修会を計画し実施した。実態把握のためにはアセスメントが大切であることやその活用方法について研修することができた。 ・第2回自立活動検討会では、自立活動部で作成した動画を活用し、課題の背景要因に迫ったり職員間での共通理解を図ったりすることができた。 ・自立活動だよりや自立活動相談報告で自立活動に関する情報を提供することができた。また、自立活動教材教具の研修会では自立活動の授業紹介を行い、各部の情報交換をすることができた。
安全で安心できる環境づくり	<p><小学部> 1棟改修工事に伴い環境が大きく変わるため、危険箇所や避難経路等を把握し、学校生活を安全に送ることができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・改修工事に伴い1棟周辺に足場が組まれたり、立ち入り禁止箇所が設置されたりしたが、けがや事故なく過ごすことができた。児童も落ち着いて過ごすことができている。 ・物品移動や教室変更に際して、保健体育部教員や学年主任と連携を図り、授業や学校生活全般で支障がないように立案し進めてきた。3月末に工事が終了する。新年度へスムーズに移行できるように引き続き連携をとり物品移動等を計画的に進めていきたい。
	<p><教育工学部> 校外向けホームページの整備を進め、学校の取組を発信し、安心できる学校のイメージを高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT支援員と協力し、CMSを使ったホームページ作成のための方法を学び、必要な素材を集めて組み立てることができた。 ・校外向けホームページをリニューアルし、情報発信の場としてのベースをつくることができた。
	<p><生活指導部> 緊急時の対応について、今までの対応を踏まえつつ検討を重ね、緊急時への備えを整える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で実施できていなかった各訓練を今年度は実施した。新型コロナウイルス感染症への対策を行いつつ、訓練をどのように実施するか考える中で、今までの実施計画を見直すことにもつながった。今年度の成果と課題を踏まえ、緊急時の対応を分かりやすくし、よりの確かな行動ができるようにしていきたい。
	<p><進路指導部> 教員や保護者に向けて、進路に関する発達段階に応じた情報を提供する。</p>	<p><小学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月に6年生保護者対象の進路説明会を行った。中学部の教育課程の説明や、作業学習の見学を経て、小学部卒業後の生活について伝えることができた。 <p><中学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月に3年生保護者対象の進路説明会を行った。高等部卒業後の進路先がどのような流れで決定されていくのかなどを伝えることができた。2年生保護者対象の進路情報連絡会では、高等部卒業生の保護者から進路先を考えるために必要なことを講演していただく。 <p><高等部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年ぶりに市町と共催で行う進路説明会を行い、過去の実習等の写真や動画を使って進路状況を伝えることができた。ホームページの動画も今年度の状況に合わせた内容に更新していくことができた。
	<p><保健体育部> 児童生徒一人一人が健康に関する知識や感染症予防方法を身につけ健康的な生活を送ることができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策について、昨年度から引き続き、保健だよりや食育だよりを中心に啓発活動を行ってきた。児童生徒も基本的な感染症対策であるマスクの着用や手洗い、手指の消毒は定着している。給食の場面でも、密集を避け換気やマスクの着用などを行いながら対策を行った。学校行事は、分散し密集を避けることなどの対策を行いながら運動会や体力テスト、水泳の授業を再開した。今年度の成果と課題についても情報共有し来年度へ向けて検討を進めている。

	校内巡視を行い、危険箇所や不要物の確認、撤去し安全に学校生活を送れる環境づくりを行う。	・校内の危険物や不要物を集約し、撤去や改善・修繕など行うことができた。今後も校内の巡視を定期的に行い、学校環境の改善を行うとともに、危険箇所を見つけるよう、安全意識を高めていく必要がある。
	<自立活動部> 児童生徒のニーズを適切に把握し、自立活動相談会を実施する。	・6月、10月、11月に豊田市こども発達センターと連携し、自立活動に関する相談会を実施した。作業療法士から専門的で活用しやすい支援方法を学ぶことができた。また、相談結果を自立活動相談報告として全教員に回覧し、支援方法を共有することができた。
	<教育支援部> 児童生徒の支援において相談資源の活用を広げ、関係機関との連携を図る。 小学校、中学校、高等学校や市町のニーズを収集し、ニーズに応じたサポートや情報発信を進め、地域との協働体制を構築する。	・豊田市こども発達センターとの相談会を実施し、臨床心理士から具体的な支援方法を学ぶことができた。 ・校内で9件の相談を受けた。3件はSSWを活用し、関係機関と連携した。1件はSCを本校中学部生徒の保護者が利用している。残り5件は校内で支援会議を行い、相談支援専門員や児童発達支援事業所等と連携している。 ・教育支援部への相談を利用した職員は全体の2割だったが、9割の職員が役に立ったと回答を得ることができた。相談会や支援会議に、担任だけでなく学年の職員も参加していることや、相談を利用しなかった理由で「学年の職員間で相談して解決した」が多かったため、学校として各部、学年等の支援体制が機能していると考えられる。今後は、相談会や支援会議によって得た情報を多くの職員で共有できるよう周知方法を工夫していく。 ・小・中学校教員向けでは「教材教具」「子ども理解」「進路」をテーマにしたグループ研修を行い、高等学校教員向けでは「通級指導教室」についての研修を行った。アンケートにより、参加者の9割から「よかった」と回答を得ることができた。 ・巡回相談では、本校の支援に関する具体的な知識や教材の助言が役立ったとの意見を多くいただいた。アフターフォローの電話で児童生徒職員の変化を聞くことができたり再度助言をしたりし、情報交換をしながら支援方法を検討し合うことができた。
働き方の改善	<小学部> 効率的に業務を進めて、児童について話す時間や授業の充実に必要な時間を確保する。	・令和5年度の標準授業時間数に対応した時間割編成に向けての話合いでは、次年度スムーズに実施できるように方法や体制を検討することを優先した。そのため、有意義な時間の使い方については十分に検討することができなかった。次年度の課題としたい。 ・各学年で効率的に業務を進めるために、各学年間での情報交換の場（学年主任者会）を設定した（年7回）。貴重な検討・情報共有の場なので、次年度も継続していく。 ・部会において、限られた時間の中での会議の進め方については、議題の検討に時間をかけるために11月から連絡・報告事項は口頭で行うことをやめた。サーバーに掲載した文書を閲覧する形に変えた。連絡・報告事項については、日常的に、Teamsを活用することが増えた。会議時間の縮小につながっているため、次年度も続けていきたい。
	<中学部> 教材研究、授業づくり、情報共有等の時間を確保する。	・次年度に向けて、宿泊学習など部内行事の見直しを検討した。各行事のねらいの確認をした上で、必要に応じて活動のしぼりこみ、時間の縮減などの工夫をして再計画を進めた。 ・5時間日課日の生徒下校後の時間は、主に各学年の生徒情報の共有や授業準備に活用し、学年会の議題検討時間の確保につなげることにした。 ・部会において、保健体育や作業などの授業動画を視聴しながら、評価の3観点に着目した実践報告を共有した。また、進路指導主事から最新の進路関連の情報を伺う機会も設定した。 ・今後も新しい視点での仕事の取組、各面で無駄を省くなどの工夫で、授業・教材研究や研修の時間確保を続けていきたい。
	<高等部> 部会を中心に効率的に必要な情報共有や意見交換ができる会議の運営方法を検討する。	・グループウェアを活用しての会議や情報共有はかなり進んでいる。同時に情報量に対応する力もスキルとして求められている。情報を適切に管理・把握し、効率よく業務を遂行できるように、仕組みをさらに整えていきたい。

<p><総務部> 職員室内の文書及び物品の整理整頓を行い、物の位置や表示を改善することにより、仕事の効率化を図る。</p>	<p>・本年度は、十分に整理整頓ができなかった。次年度は、より一層の職員室内の整理整頓を行い、物の位置や表示を改善し、サーバー内の整理整頓を行うことにより教職員の仕事の効率化を図る。</p>
<p><教務部> 個々の教員が必要なときに教務関係書類マニュアルや記入例等の情報を見られるよう情報源を増やし、必要な情報を手に入れやすい環境を整える。</p> <p>資料作成の繁忙期の分散を狙った業務の推進を図る。</p>	<p>・今年度の教務関係書類マニュアルにおいて記載例の情報不足等の運用の不具合が出ている。次年度に備えて随時次年度に向けた修正を行い、より精度の高いマニュアルとなるように改善を図っていきたい。</p> <p>・新たな様式が増え、教務関係書類マニュアルでは情報が多すぎると判断し、情報を絞りそれぞれの様式の全体像、提出期日、データの場所を一覧にした簡易マニュアルを新たに作成し、Teams等でデータを職員へ配付した。</p> <p>・前年度末に作成してあったモデル年間指導計画や児童生徒の中心課題の活用、個別の指導計画の随時評価を進めることで、特定の時期に偏っていた業務量を軽減することができた。</p> <p>・年度始め、年度末に起案書類が増える傾向があるので、長期休業前にはそれぞれの様式の起案期日等を一覧にして示し、各教員が計画的な処理を行えるよう情報発信に努めた。</p>
<p><教育工学部> 校内サーバーの整備及びデータの整理を進めて、必要な情報を利用しやすい環境づくりを行う。</p> <p>ICT 機器の効果的な使い方を周知して学校全体の ICT 利用を促進する。</p>	<p>・校内サーバーの定期的な整備と整理を進め、容量の圧迫を防ぐことができた。</p> <p>・個人情報が含まれたデータを集約することで、セキュリティ面の向上を図ることができた。</p> <p>・Teams を利用して、動画編集の方法などの有益な情報を周知することができた。</p>
<p><教育支援部> 校務部会内での「校内支援(情報交換)」を廃止し、Teams 上で情報交換、共通理解を行う。</p> <p>Teams を活用し、業務の情報交換や情報共有をする。</p> <p>各々の働き方や立場に合わせて担当者を配置できるよう、業務分担の見直しを行う。</p>	<p>・Teams 上で「校内支援(児童・生徒の情報交換)」を行うことで、校務部会内で取り扱う議題をじっくり検討する時間が増えた。また、校内の教員から受けた相談や、部会等で校内支援が必要な情報を得たタイミングで Teams に打ち込むことができ、時間を有意義に使う体制ができた。</p> <p>・Teams にて、業務の依頼・報告をすることができた。業務の情報交換や情報共有は Teams での発信が頻繁にできず活発なやり取りには至らなかった。しかし、校務部会を通して情報共有し、係同士で相談して業務に取り組むことができた。今後は、地域諸学校への巡回相談に関する情報交換や、各業務についての報告・連絡・相談を活発にやり取りできる方法を改めて検討し、柔軟に業務を分担し合えるようにしていく。</p>
<p>総合評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業づくり カリキュラムマネジメントの視点で、主体的・対話的で深い学びのための授業づくりを行った。いきジョイ(校内研究)では、部を越えたチームで授業実践に触れる中で、より部間のつながりを意識することができた。また支援方法の根拠となるアセスメントの研修を行うことで、アセスメントの重要性が分かり授業づくりの基盤をつくることができた。 2 安全で安心できる環境づくり 改修工事期間中も大きな事故やけがもなく過ごすことができた。感染症対策については、基本的な感染症対策を周知徹底することで、これまで自粛していた様々な活動を再開することができた。地域や関係諸機関と連携を図ることで、具体的な支援方法を学ぶことができた。 3 働き方の改善 Teams を活用することで、業務の情報交換や情報共有をすすめて、会議の時間を有意義に進めることができた。校内サーバーや備品の整理などは進めることができたが、職員室内の文書や物品の整理には課題が残っている。